

地域共通 の課題

- 人口減少や若者の域外流出に伴う地域の担い手不足

背 景

- 就職時に長野県を選ぶきっかけとなる地元産業・企業に対する認知度の低さ

取組の 方向性

- 子ども達へ地域産業・企業の魅力を伝える取組の一層の充実が重要（県内進学・就職、Uターンに繋げる）

＜県外進学の大学生等のUターン就職率（県労働雇用課調べ）＞

R2	R3	R4	R5	R6
33.8%	38.4%	36.5%	34.3%	34.3%

「信州未来共創戦略」における位置付け

戦略の柱	2050年にありたい姿	2030年に目指す旗	具体的取組例
【4－2】 多様な人材の労働参加 と省力化を進めよう	若者・女性にとって魅力ある企業が増加し、Uターンを含めて多くの方が県内での就労を希望している。	小中高校生が産業・事業所を知るための取組（就業体験、インターンシップなどを含む。）がすべての地域で実施され、参加事業所数を1,000以上とする。	小中高を通じて地域を知り地域に学ぶキャリア教育などの取組を充実

現状の主な取組

団体名	職業体験等の取組	アクション
長野県経営者協会	■ 県内中学校・高校等での出前講座（職業観形成の講話等）	—
長野県中小企業団体中央会	（大学生向け若手社員との交流会の開催）	—
長野県商工会議所連合会	■ 長野商工会議所：学校への出張授業（ものづくり体験講座） ■ 塩尻商工会議所：地元企業と中学生が連携した商品開発 等	小中高校生が地元産業・事業所を知る取組への参加
長野県商工会連合会	■ 職業体験の受入企業リストを作成し、市町村へ配布	—
日本労働組合総連合会長野県連合会	■ ものづくり体験講座の実施	—
長野県	（※次ページ記載）	将来の県内産業の担い手を確保するため、子どもたちが地域産業・企業の魅力を知る職業体験等の取組を支援

【重点テーマ②】地域産業を担う人材の確保・育成の推進について(キャリア教育)

県アクション

将来の県内産業の担い手を確保するため、子どもたちが地域産業・企業の魅力を知る職業体験等の取組を支援

取組

将来の県内産業を担う人材を確保するため、子どもたちが地域産業・企業の魅力を知る職業体験等の取組を支援

R7新規

キャリア教育支援ポータルサイトの構築

職業体験等の提供企業情報やキャリア教育の取組事例等を一元的に集約・発信するポータルサイトを構築(R7.8.1~公開)

ポータルサイト「こどもキャリアラボながの」



【掲載情報】

- 職業体験等の受入れ企業情報
- キャリア教育の取組事例
- 産業展等のイベント情報
- 「信州ものづくりマイスター」の活用事例
- 「職業体験支援コーディネーター」への相談受付窓口 等

サイト二次元コード



産業界



経済団体、企業等

連携・協力関係

① 提供メニューの登録



③ 実施内容等の調整



① 提供メニューの検索・申込



③ 実施内容等の調整

教育界



小・中・高校

・キャリア教育支援ポータルサイト
・職業体験支援コーディネーター

R7新規

職業体験支援コーディネーターの配置(3名)

企業と学校をつなぎ、双方のニーズを踏まえた職業体験等の取組をコーディネートする「職業体験支援コーディネーター」を配置

担当地域	氏名
東北信	ばん みさこ 伴 美佐子
中信	ひらばやし あきこ 平林 明子
南信	おりべ いくよ 織部 郁代

【主な役割】

- 企業・学校双方をつなぐマッチング支援
- キャリア教育の取組に関する相談支援
- 学校・企業との協力関係の構築、取組普及活動
- 「職業体験支援ポータルサイト」の登録管理 等

職業体験支援コーディネーターによる事例紹介

■ 織部 郁代 コーディネーター（南信担当）

＜プロフィール＞

- ・上伊那郡内の中学、高校でのキャリア教育社会人講師
- ・商工会議所等における人材育成部門での講演

＜内容＞

- ・コーディネーターの活動紹介
- ・地域におけるキャリア教育の取組事例の紹介

【意見交換テーマ】

◆ 地域産業を担う人材の確保・育成の一層の充実に向け、各地域における個々の取組を地域全体での取組として推進していくために、どのようなことが必要か。

- ➡ ・各団体における既存の取組等の紹介（内容、課題・成果等）
- ・各地域において個々の取組を活かし、地域全体で職業体験等の取組を推進していくために、どのようなことが必要か意見交換を行う。

※今後、各地域における取組が一層進むよう、「地域会議」のテーマとしても意見交換を予定

郷土愛プロジェクト



2024.12.26

【郷土愛プロジェクト】

議題

子どもが地域の魅力を知り、 地域と密接に連携した学びを展開するために必要なことについて

1. プロジェクト概要（発足背景等）
2. 事業内容（活動紹介等）
3. 今後に向けて（課題等）



プロジェクト概要

郷土愛プロジェクトとは

上伊那8市町村の産学官等の組織が、従来の枠組みを超えて協働し、次世代育成を核にした地域づくりを実践するプロジェクトです。

コンセプト 「みんなとつくろう ふるさとの未来」

私たちは、多様な人とのつながりの中で、

ふるさと（私・社会）の幸せな未来をつくりたいと思います

「私」（個人）の生き方や思いこそが、「社会」全体の成長・発展につながると信じています。

ミッション 「つなぐ」

多様な人と出会えるよう「つなぐ」役割を果たします。

子どもたちや大人（産学官、地域）をつなぎ、

互いに尊重しながら、出会い、学び合う機会をつくります。



「つなぐ」ことで生まれる価値

＜子どもにとって＞

- ◎多様な出会いを通して、豊かに成長し、自分らしい生き方を実現することにつながります。
- ◎幼少期（小中高大）から社会人までのつながりのある学び（キャリア教育）ができます。

＜大人にとって＞

- ◎「人材育成」「少子高齢化」「人口減少」「若者流出」等の大きな地域課題に対して、多様な人が対話し、協働しながら解決する機会をつくります。
- ◎ふるさと・子どもたちの未来について考え、ふるさとの思いを受け継ぐ次世代育成の機会をつくります。



子どもと大人をつなぐ「次世代育成」

次世代育成活動は、

子どもと大人が、両輪のようになり

お互いが、前向きに取り組むことで、

ともに、学び、高めあうことができます。

その歩みが、個人・地域・未来の発展につながります。

発足の背景（2011年頃）

産業界

- ◎若者の地元就職率の低さ
（若者人材流出）
- ◎職場体験（中学生）の課題
- ◎将来の産業や暮らしへの危機感等



学校（中学校）

- ◎職場体験の課題
（受入企業が少ない、内容等）
- ◎キャリア教育は学校だけでは
出来ない。
（多様な生き方に出会わせたい）



行政・地域

- ◎少子高齢化の加速
- ◎地域の担い手の不足
- ◎若者との接点の不足
- ◎伝統・祭り等の継続危機



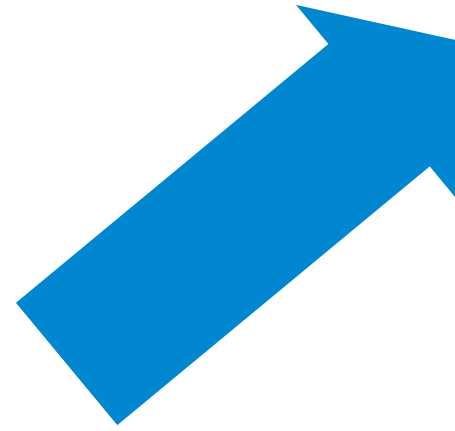
次世代育成に関する

みんなの「困った！！！」が重なる

「このままでいいのか？！」



発足から現在まで



2024年 現在

上伊那8市町村の産学官メンバーでの活動へ
(現在の構成メンバー：36団体60名)

2011年頃～

伊那市キャリア教育推進委員会発足
(伊那市をモデル地区に産学官の有志で実践)
嘆くだけではいけない！何かしなければ！！
「小さく生んで大きく育てよう！」

2014年 【郷土愛プロジェクト発足】

産学官有志の対話やトライアル実践を経て、
2014年上伊那8市町村長×経営者協会懇談会で
提案し、正式に
郷土愛プロジェクト発足

2004年～

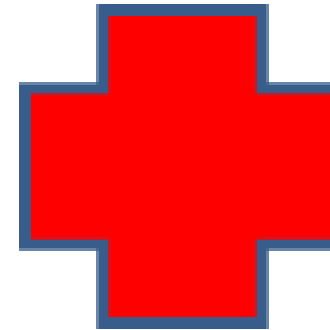
長野県経営者協会上伊那支部が青少年育成委員会を組織
(職場体験に対して、産業界で組織化し、学校支援開始)

多くの方の
ご協力のもと、
現在の形になりました

郷土愛プロジェクト 現在の構成メンバー

長野県経営者協会上伊那支部
伊那商工会議所
駒ヶ根商工会議所
上伊那商工会連合会 等

16団体



上伊那小・中校長会
上伊那地区高等学校校長会
信州大学

4団体(管内64小
中・高・代表)

長野県教育委員会
南信教育事務所
上伊那8市町村教育委員会
上伊那市町村教委連絡協議会
上伊那広域連合(事務局)

12団体

上伊那PTA連合会、
長野伊那谷観光局、
長野県産業振興機構
上伊那産業振興会

4団体

上伊那地域の
産学官＋地域の皆さんで構成
(現在の構成メンバー：36団体60名)

発足当時の思い

向山孝一 会長メッセージ



今を生きる私たちは、10年後、20年後、30年後の伊那谷に、
どんな人・もの・ことをつないでいけばいいのでしょうか。

伊那谷の自然・文化・歴史・産業と結び合いながら営んできたこれまでの暮らしを、どう考え、

何を次世代につないでいくことが望ましいのでしょうか。

郷土愛プロジェクトは、

「これからの伊那谷について、上伊那の産業界、教育界、行政、家庭、地域が深く結びつき、

互いに知恵を出し考え合いながら、よりよいふるさとの未来を担う人材を育成したい」

という思いで立ち上げました。

郷土愛プロジェクト・事業内容(大分類)

【コンセプト】 みんなとつくろう ふるさとの未来
【ミッション】 「つなぐ」
【企画・運営】 事務局会議・全体会議

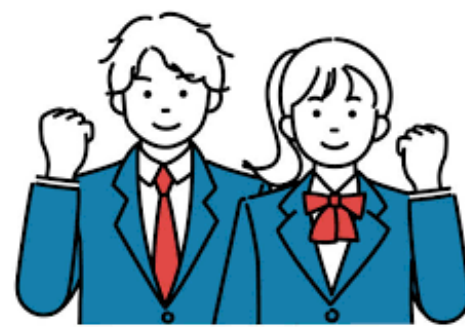
①産学官協働
事業

②次世代育成
事業

③情報発信・活用
事業



多様な地域の人を
つなぐ

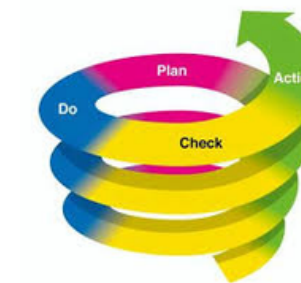
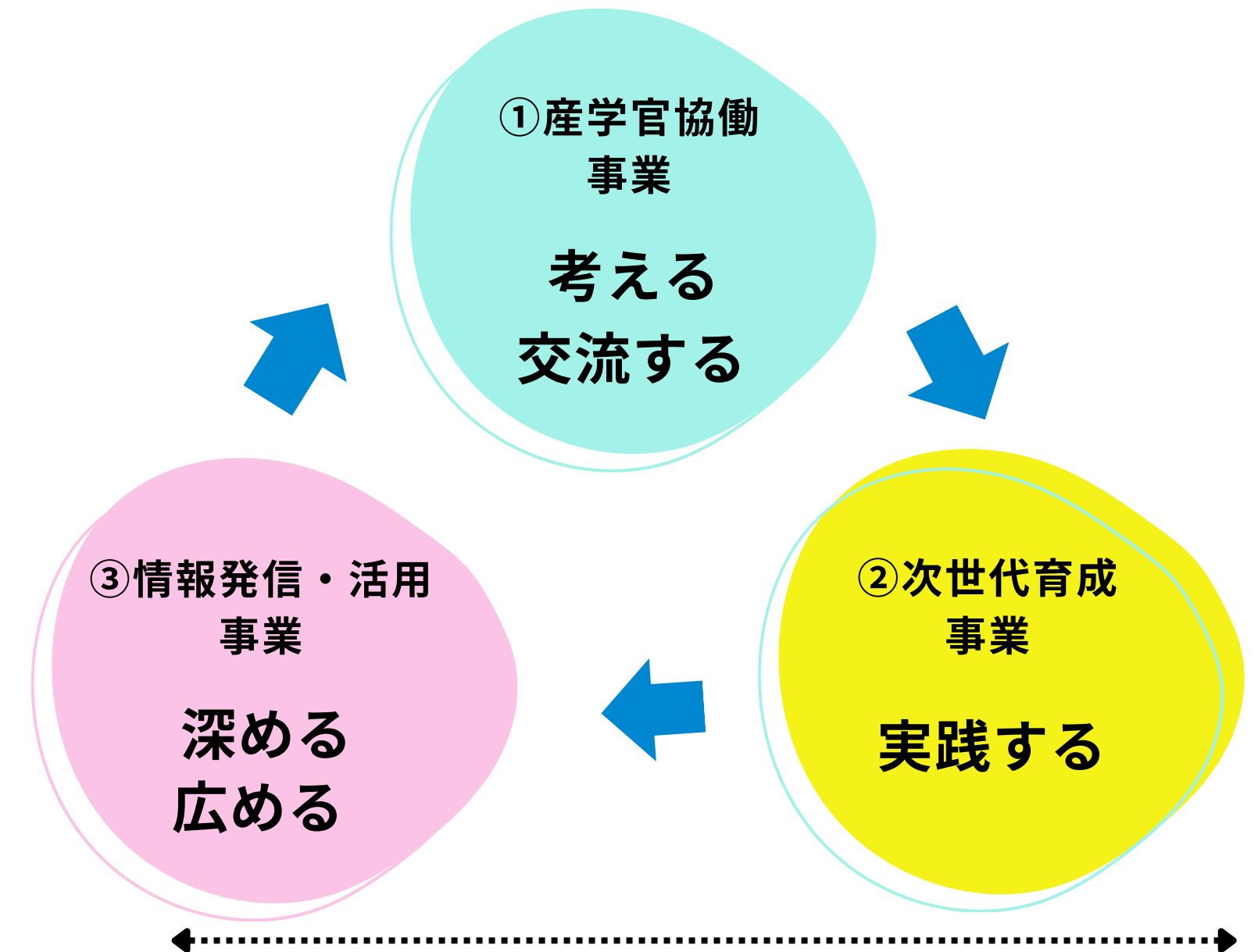


子どもと大人を
つなぐ



情報を
つなぐ

3つの事業循環



事業間が循環し、
広がり、高まるような
スパイラルを目指す

【活動例】 1、産学官協働事業 ～キャリア教育かみいな交流会～

【事業目的】 ○上伊那の人・組織の交流と協働を促進 ○地域の人々の主体的な活動の支援

①目的 キャリア教育のよりよいあり方を考える。

「私」が多様な人・多世代の交流や学びをとおして、
地域づくり・次世代育成の担い手の一人になる機会にする。

②内容（2024年実施内容） ※開催地は上伊那8市町村持ち回り

○交流会の企画・推進 開催地市町村の実行委員が中心

○交流会参加者：上伊那内外の産学官・学生等500名程

○内容 テーマ：「自分のことちょっと考えてみない？」

～かみいなミーティング 出会い・驚き・発見～

概要：オープニング（来賓挨拶、全参加者交流）



トークセッション（8部屋に分かれ、多世代の小グループで語り合う時間）

クロージング（全体共有・来賓総評）

③実績（2014年～2024年）

○実施回数：11回（年1回開催）

○参加者合計数：3040名（1回平均300名程度）

④参加者の声

産業界

学校現場や子どもたちについて
知ることが出来た。企業として、
キャリア教育にどのように
関わればいいかが分かった。

学校

学校の中だけでは、知らなかった
考え方や人に出会えて、
目からうろこ。子どもたちに
伝えていきたい。

行政

異業種の人との交流で新しい気
づきがいっぱいあった。
次世代育成分野はもっと色々な
セクターと協力し合いたい。

子ども

大人の人と話すのは、少し緊張し
たが、大人が寄り添ってくれて安
心して、とても楽しく話せた。
色々な考えや生き方を知ることが
出来て、将来が楽しみになった。

次世代育成の
主体は、
私たちなんだ・・・



【活動例】 2、次世代育成事業 ～学校支援活動～

【事業目的】 ○学校を中心とした教育活動の支援（小中高大の学びをつなぐ） ○子どもと大人（社会）をつなぐ

- 1 目的 学校や生徒の問いや願いに応じて、地域とつなぐ。
企業等の地域の人に参加しやすい仕組みをつくる。

2 内容

地域・大人

（人・企業・団体等）

学校・子ども

（小中高大等）



地域・大人のニーズ（例）

- ・地域活性化のイベントの企画を高校生と考えたい
- ・商品について、高校生のリアルな声や意見を聞いてみたい。

学校・子どものニーズ（例）

- ・探究のテーマについて、大人に話を聞いてみたい。
- ・地域課題についてリアルな状況を聞き、自分たちでできることを考えたい。

3 年間実績（2023年）

①対象のべ生徒数 約2500名以上

②実施学校（中・高等） 9校

②社会人講師のべ数 300名以上

【例】・キャリアフェス、フィールドワーク（地域ツアー）
プロジェクト学習、探究・キャリア教育支援等

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

キャリアフェス（伊那西高校）について（2024）

参加企業数：23社 参加生徒数：355名（1年生～3年生）

内容：地域の企業や働き方や暮らし方について学ぶ。

（各ブースにて、対話・体験を中心に）



【活動例】 3、情報発信・活用事業 Hi（冊子作成） ～上伊那の高校とくらし～

【事業目的】 地域の人・活動の情報を若者や他団体につなぐ（深める・高める）

（１）目的 中学生が主体的な選択ができるように高校や地域の生き方の情報を伝える。

※元気づくり支援金事業

（２）内容 上伊那11高校（全日・通信制）を一括して、上伊那全中学3年生（1800名）に冊子で紹介

（３）作成の背景・願い

学校・子ども

上伊那の高校や暮らしについて、魅力や情報を知ること、より**主体的な進路選択**をしてほしい。

（上伊那11校を一括して掲載、**上伊那での生き方**も紹介）



（４）冊子の主な内容

- ①11高校の紹介
・在校生インタビュー、学校の魅力等
- ②上伊那の短・大学紹介
- ③進学した先輩インタビュー（大学等）
- ④上伊那で働く先輩と企業紹介等
- ⑤上伊那の魅力やきらめき人の紹介



（５）読者の声

学校・子ども

- ・上伊那の**高校の特色**を比べながら、見る事が出来て、進路選択の参考になった。
- ・高校の先の、**地元で働く先輩**について、知ることができた。

保護者

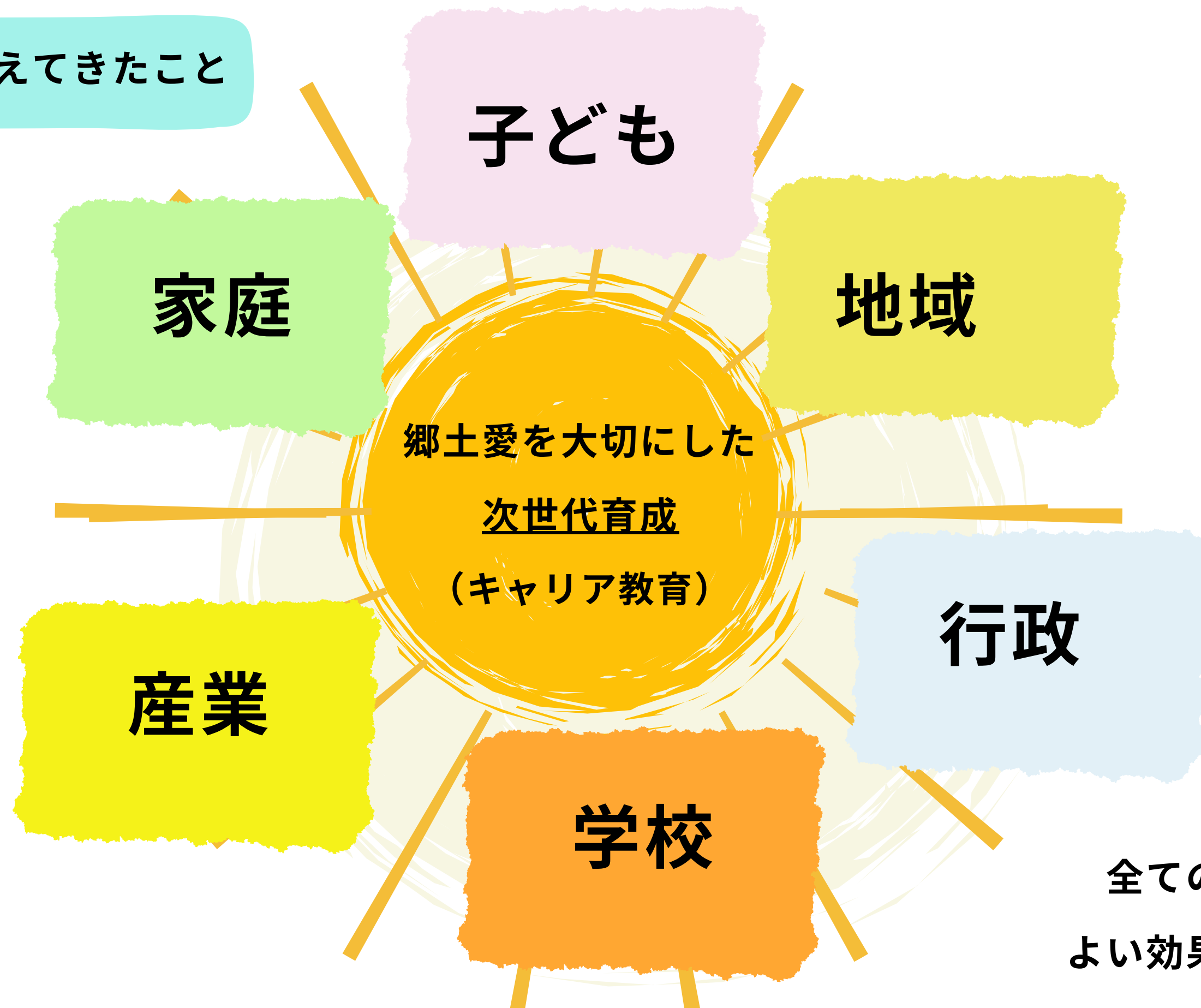
- ・偏差値だけでなく子どもの個性を生かせそうな高校が分かった。
- ・親子で一緒に、**高校や上伊那について考える**ことが出来た。

ホームページでは、随時、活動を発信しています。

【成果】

「次世代育成は、**六方よし**」

10年以上の実践で見えてきたこと



全ての人にとって、
よい効果があるのでは。

それぞれの価値・メリット（例）



成果 ～少しずつ現れ始めているキャリア教育の成果～

【子どもたちが主体者に！】

今年2月、郷土愛プロジェクト開催の「未来ラボ」で伊那市出身の大学生が、中高生が地域の人とつながり、選択肢や価値観を共有する「場」を作る構想について発表し、多くの人が参加しました。

自分自身が、中学・高校時代のキャリア教育や探究活動での出会いを振り返り、「**地域で活動し、地域の大人と出会っていろいろな選択肢や価値観を与えてもらった。今度は自分が次の世代に恩返ししたい**」と語りました。

その後、地元で**中高生対象のイベントを実施し**、地域を盛り上げる主体者としても活躍しています。

【産業界・地域からの声】

- ・「中学校の職場体験に来た生徒が、会社に興味を持ち、**就職し、熱意をもって働いてくれている**」
- ・「キャリアフェスで出会った子が就職した」
- ・「探究の授業で出会った子が、地域のイベントの実行委員になって活躍している」等の声も多数届いています。



「郷土愛を大切にした」次世代育成（キャリア教育）がポイント！



◎私たちの大切にしたい郷土愛とは（活動の根っこ）

① アイデンティティ・価値観

（人・ふるさと等とのつながりや経験によって積み重ねられた思い）

② シビックプライド

（自ら未来や社会をつくろうとする主体性・社会の一員感）

③ 世代を超えた想像

（先人・ふるさとへの感謝や誇り、子どもたち・ふるさとの未来を思う気持ち）

「郷土愛」を大切にすることで、
個人（自己実現）だけでなく、
他者や社会とつながる
豊かな生き方の実現につながる

「郷土愛」を定義しないと、
「地域にしばりつけるための活動?!」等と
誤解されることがある。
大人のビジョンの共有が必要

今後に向けて（課題等）

① 息の長い取組で、成果が見えにくい。

- ・例えば、中学生に対して行ったキャリア教育が、5年後、10年後、20年後どのように成果を見せるか分かりづらい。また、子どもの発達段階（小中高等）に応じて、多くの大人が関わるが、実施したことのつながりや効果が分かりづらい。そのため、大人が主体的に関わるのが難しい。

⇒各組織の枠組みを超えて、広域的に、小中高大や産学官が連携し、情報交換や実践する必要がある。

⇒長期的なスパンで見えた効果や成果を、つなぎ合わせて視覚化する必要がある。活動を続けていく必要がある。

② 異業種で、考え方や目的が違う。

- ・例えば、学校のキャリア教育は「生徒の自己実現」が注目されやすく、「社会貢献」「地域の担い手」「地域の現状」につながる視点が弱い。産業界は、最終的に「地域の担い手となってほしい」という願いがある。

⇒これらの違いについて、強引に同じ目的にそろえるのではなく、それぞれの思いを大切にしながら、まずは接点を多くつくり、「六方のよし」（それぞれのメリット）の状態を目指せばよいと考える。そのことを伝える必要がある。

③ 産学官等、様々な意見や考え方や現状を尊重し、生かし合う。時代に合わせて変化する。

- ・事務局・全体会議を産学官のメンバーで構成する。（行政の視点や考え方だけでなく、幅広く取り入れる）
- ・時代とニーズに合わせて常に変化や進化することを考える必要がある。